

福島・かつらお村 アート活動のかわら版



「スキコム by Katsurao Collective」は、葛尾村で活動しているアーティストたちの活動のようすをお届けする「ニュースレター」です。畑に堆肥を鋤き込むように、地域に多様な価値観を混ぜ入れる活動の魅力をお伝えします。

スキコム

by KATSURAO COLLECTIVE



北海道から、沖縄から……アーティストが葛尾村に滞在

Katsurao AIR 2025 Summer 活動報告会

福島県双葉郡葛尾村に、アーティストやクリエイターが滞在し、リサーチや制作を行うアーティスト・イン・レジデンスのプログラム「Katsurao AIR」。2025年6月からの2か月間滞在した3名のアーティストの活動報告会が、7月24日(木)～27日(日)の4日間、葛尾村内にて開催されました。

「葛尾村のみなさんは、農業や草刈りをまるで毎日のごはんのようにならなくていいよ」と話しているうちに、あたりに見えてくる風景に触発されて生まれたこの作品もまた、どこかで誰かの心を動かすのかもしれない。



風景の成立要件を、 全身で探る

福島市出身・沖縄県那覇市在住のアーティスト丹治りえさんは、夏の葛尾村のいきいきとした新緑の風景に目を奪われたといいます。そして、その背景にある、この地で暮らす人々が自然環境と関わりながら続けている営みに着目しました。

葛尾村の歴史を「人と自然との関わり」という視点から探求すると、入植・開拓の記録に辿り着きます。土地を拓いてきた先人たちの努力や、今まさに自然と対峙しながら生きている人々の暮らしを想像しようとして、丹治さんは自分で畑をつくってみることに。ご縁を得ることができた大放(おおはなち)行政区内のある一角で、草を刈り、根っこを除いて土を起し、そこに小松菜と二十日大根を植えました。

報告会当日は、実寸大(3m×5m)のピクニックシートがスタジオに登場。シートには、丹治さんが土を起した現場がプリントされています。26日(土)には「草刈り畑の収穫祭」と題して、シートの上で小松菜と二十日大根を食し、ささやかな実りをこの来場のみなさんと分かち合いました。

『経営者の孤独。』 土門蘭 (どもん・らん) / ポプラ社, 2019年 選書: Katsurao Collective スタッフ (PR担当) 阪本 健吾

“世界に触れる条件は、自ら進むこと、そして「孤独」であることなのかもしれない”(p.108)

アーティストを地域に迎え入れて、対話をし、それを他者に届ける「スキコム」。本紙だけではなく、WEBなどの様々な媒体でも発信を続けています。現代美術を知らない私がアーティストに話を聴くということと、とても似た構造のインタビュー集なのではないか?と考えて手に取ったのが、『経営者の孤独。』でした。文筆家・土門蘭さんが聞き手となって、10名の経営者に「孤独ってなんでしょう?」と尋ねた一冊です。旗を立て、リスクをとり、意思決定をし続ける存在、それが

経営者です。他者に期待しすぎず、手を動かすこと。信頼はすれど、信用はしないこと。心に傷を負うからこそ、誰かを癒す商品やサービスを生み出すことができること。起業や事業承継などのさまざまな立場から、それぞれの「孤独」のありようが浮かび上がってきます。

Katsurao Collectiveの活動で葛尾村を訪れるアーティストたちも、地域という世界に対峙し、意思をもって何かを生み出す存在です。そこにある孤独や、固有の感情を想像してみることで、より深い洞察が得られるのかもしれない。

経営者の孤独。
土門蘭

Katsurao Collective Information

10/2(木) - 5(日)
宮城県

展示企画「AFTER THE NEW ORDER」(せんだいメディアテーク)
これまでの「Katsurao AIR」で生まれた作品をご紹介します展示企画を、仙台市の複合文化施設「せんだいメディアテーク」1階オープンスクエアで開催いたします。入場無料・予約不要です。

10/11(土)・10/25(土)
11/30(日)
葛尾村

かつらお企画室 ワークショップ
それぞれ、陶芸・レザークラフト・藁もじりといった多様な素材に触れることができる参加型のプログラムです。お申込みなどの事前情報をウェブサイトでご確認のうえお越しください。

10/31(木) - 11/3(月・祝)
葛尾村

Katsurao AIR 2025 Autumn 活動報告会
10月から葛尾村に滞在し活動を行う3名のアーティストの報告会です。11月3日(月・祝)はワークショップ「カツラオコーンをつくろう!」を「かつらお恵みの感謝祭」会場内で同時開催します。

10/31(木) - 1/12(月・祝)
葛尾村

Katsurao Collective 2022-2025 活動報告展
上記「Autumn 活動報告会」と併せて実施する展示企画です。Katsurao Collectiveの4年間の活動の一端をご覧ください。

11/5(水)
神奈川県

編む、つなぐ、暮らしを紡ぐ ～葛尾村 残糸で編み機体験～
横浜市黄金町の「黄金スタジオ」で、葛尾村のニット工場の残糸を使ってストールやバッグをつくる出張ワークショップを開催します。事前予約優先(予約はWEBから)です。

12/4(木) - 14(日)
東京都

展示企画「生なる手」(渋谷ヒカリエ 8/CUBE 1,2,3)
毎年恒例となっている東京・渋谷での展示企画を今年も開催します。葛尾村で生まれた作品の数々を、東京でもご覧いただける貴重な機会です。入場無料・予約不要です。

▶ おわりに

Katsurao Collective の多くの取り組みの共通点として「その場限り」である、ということが挙げられます。数週間から数か月滞在したアーティストは、その期間の最後に作品や制作過程を公開しますが、期間が終わればそれらは撤収され、本人はもとの拠点に帰ります。地域の素材を発見し、参加者のみなさんと一緒にその魅力を共有するワークショップでも、その開催日時が終われば、講師も参加者のみなさんも、もといた場所に戻っていきます。この地をめぐる森羅万象と響き合い、表出したものを眼前にして、そこに集う人々。決まって、ふだんは話題に上がらないような何かについて語り合います。その

時間、その空間にしかない光景とコミュニケーション。翌日、きれいに片づいたようすを見ては、なんて儚いことを仕事にしているんだろう、と思います。一方で、生きることは「その場限り」の連続でもあります。誰もが、たくさん繰り返される「その場限り」から絶えず影響を受けて、今ここに存在しているはず。Katsurao Collective の現場で生まれ続けているいくつかの忘れ難いひときは、アーティストや鑑賞者といった立場を超えて共有され、確かにそれぞれの心に浸透しているのだと思います。



写真: Dory 誠



北海道札幌市在住の**内田聖良**（せいら）さんは、戦国時代から土着し、製鉄や生糸・木炭づくりなどで財をなした一族「葛尾大尽（だいじん）」の「あかずの池」の伝説に着目しました。「あかずの池」の奥には大事な宝物をしまっていた蔵があり、池の水を抜かなければそこには辿り着けないようになっていたと伝えられています。

作品です。鑑賞者は事実と真実のあいだを揺れ動きながら、この地にある数々の物語に思いを馳せていました。かねてから映像やVRなどのテクノロジーを用いた作品を発表してきた内田さんですが、今回は葛尾村の石を砕いて絵の具づくりに挑戦。作品内に登場したアニメーションには、この絵の具で描かれた水彩画が使用されています。まさに地域の風土そのものから作品が生み出されたことを、制作スタジオの公開によってより深く体感できる機会となりました。



1万年先を想像し、デザインする



多様な現場でデザイナーとして活動している**もそらと**さんは、地域の資源を使って、地域の子供たちと一緒にデザインの方法論をベースとしたワークショップを実現したいという思いのもと、この滞在プログラムに参加しました。着目したのは、葛尾村内で採取できる粘土質の土と、約1万年前の人類の暮らしの痕跡である、縄文時代の遺跡です。2回に分けて葛尾小学校の児童たちを対象に行った滞在期間中のワークショップでは、1回目は土偶が実際につくられていた約1万年前を、2回目は現在から1万年後を想像するよう子供たちに促し、いずれも葛尾村で採取した粘土を用いて作品制作を行いました。活動報告会では、それらのワークショップの成果物を縄文時代の方式で焼成したものをお披露目。さらに、プロダクトデザイナーならではの視点として、土という素材をより深く理解し、その可能性を引き出すための様々な試行について、併せて展示を行いました。また、会期中に「葛尾の土を触ってみよう！粘土造形ワークショップ」を開催し、ご来場者のみなさまにも葛尾村の素材を体験していただきました。「子どもたちにまた会いに来たい」と語るもそらとさん。今後の活動にもぜひご期待ください。

価値の気配を、未来へと手渡す

8月4日から17日までの2週間は、神奈川県在住のアーティスト**渡辺望**（わたなべ・のぞみ）さんが家族で滞在しました。ファミリーレジデンスらしく、子どもたちの視点に焦点を当てた活動を展開。「葛尾」と「価値（VALUE）」を掛け合わせた造語「KATSURAV（カツラヴ）」をテーマとして、村を歩き、人と出会い、それらの経験をもとに親子それぞれが創作を行いました。16日に実施した活動報告会では「ひとりひとりの創造性がゆるやかに広がる空間構成を意識しました」と語った渡辺さん。子どもたちの創造の現場に立ち合いながら過ごした2週間を「すべてが宝物のようにした」と振り返りました。地域を舞台に、子どもたちのまなざしを通して、今ここにある価値に光を当てる「KATSURAV PROJECT」。今後の展開も楽しみです。



Katsurao AIR 2025 Group & Family Program

8月は、全国のアーティストインレジデンスプログラムの中でも限られた機会として、グループおよび家族連れで活動するアーティストを葛尾村に迎えました。

8月18日から31日までの2週間は、映像作家の**山下つぼみ**さんと**北川未来**（きたがわ・みく）さん、音楽家の**中野徳子**（なかの・のりこ）さん、アーティストの**サノタコ**さん、小学1年生の**丹治賛**（たんじ・さん）さんによるグループプロジェクト**Roaring Buffalo**（ローミングバッファロー）が滞在しました。異なる背景を持つ5人が「家族」となり、新たな「故郷」を未知の地に創造すること、をコンセプトとして、村内の野草や野菜を使って行うフィルム現象や、作曲・即興演奏、住民参加型のコントラバス試奏体験など、領域横断的な活動を展開しました。30日に開催した活動報告会では「Roaring Buffalo のうち」と題し、映像と音楽を中心としながら、現像用フィルムやコントラバスに実際に触れていただけの空間をしつらえました。座談会では、葛尾村民のみならず、東京在住の学生のみならずとも立場を超えて言葉を交わし、家族とは何か、表現とは何か、話の尽きない一日となりました。



仮想家族、それぞれの日々と創造



活動アーカイブ配信中！

滞在中に収録したアーティストインタビューや座談会の模様、これまでの活動のアーカイブは、「note」「YouTube」「Spotify」他 各種オンラインサービスにて配信中です。本紙に掲載しきれなかった裏話も盛りたくさん！ぜひ覗きにきてください。



note



YouTube



Podcast